

国際理解に関する研究授業を実施しました！

2年生のコミュニケーション英語Ⅱの授業で、国際理解に関連する研究授業を行いました。教科書のDo you need that?というテーマと関連させて、「身の回りには必要ないのではないか」と思われるものに着目して、それに着目した取り組みを行うことで、SDGsの課題解決につながるのではないかと問題提起を行いました。



It is unnecessary for us to have..., because... By not having them, we can...という英語の定型表現を利用して、自分の意見表明を全員がグループ内で行い、グループ内で意見を共有し、関連するSDGsの項目を考えさせました。お互いの意見を他己評価させ、グループ内でのベストオピニオンを決め、プレゼンターが各グループを回って、全体でもクラスの意見をシェアさせました。

生徒から出た意見としては、

プラスチックのストロー・ペットボトルのラベル・こたつ・鉛筆・上履き・教科書などなどが上がりました。

最後にALT（フィリピン出身）の先生からは、ガス自動車についての話があり、フィリピンの田舎では、貧しい人が多いため、自動車が、一家一台がなく、それを解決する手段として、Jeepneyという乗り合いバスのようなものがあることや、JET（アメリカ出身）の先生からは、日本では、フルーツなどに包装がされていることが多いが、アメリカでは、フルーツが包装されておらず、個々に自分の必要な分だけ取っていく形式であることが伝えられました。

他国の現状と比較することで、日本の「あたりまえ」が実は、「持続可能」につながっていないこともあることがわかりました。

生徒の感想からは、

- ・みんなが思う必要ないものにばらつきがあって、そんな考えもあるんだなと気づいた。
- ・日本の過剰包装は世界から見るとマジ無駄。
- ・色々な考え方があると改めて感じた
- ・不必要なものって意外と多いんだなと思った
- ・自分がいるって思ってたものも他の人にとってはいらなかったりするんだなと思った
- ・いっぱいいらぬものあるなと思った
- ・自分では考えないような意見があって素敵だなと思った
- ・自分は必要だと思ったものでも他人は必要ではないと感じていたこと
- ・確かになって思うものが多かったです
- ・みんなの意見は自分が考えていたものとは違って面白かった



- 身の回りにも、やりすぎなものがたくさんあるな—って思いました。
- 要らない物は沢山あることに気づいた
- さまざまな考え方があるんだと学んだ
- 身の回りにある要らない物は何か積極的に探そうと思った
- 必要ないものって沢山あるという意見がありました。



他者と意見を共有することで、自分では考えなかった「気づき」を得られたことは大きな収穫だったと思います。

今日の授業は、JICA から 2 名の方が授業見学にいらっしゃいました。

「国際理解を取り入れた活動型の授業は新鮮で、自分もこのような授業を受けたかった」と言ってくださいました。その後、様々な協議をして、JICA 地球ひろばへの校外学習や英語での研修員さんとの交流など様々な連携の可能性を考えていきます。

「身の回りの自分にとってのあたりまえ」は、「他の国ではあたりまえではない」ことや、「他の人にはあたりまえではない」ことに気づくことが異文化理解の第一歩であり、それを行動につなげていくことが SDGs の課題解決につながる重要なステップではないでしょうか？SDGs の切り口で、身の回りの課題を自分事にしていくきっかけを教科の授業でも意識的に取り組んでいきたいと思います。